

JAなめがたしおさい

1. 基本的事項

(1) 概要（令和4年7月31日現在）

- ①名 称 ・ なめがたしおさい農業協同組合
- ②所 在 地 ・ 茨城県神栖市深芝2752番地5
- ③設立年月日 ・ 平成31年2月1日
- ④地 区 ・ 鹿嶋市・神栖市・行方市・潮来市
- ⑤組 合 員 数 ・ 正組合員 12,377名
・ 准組合員 6,038名
- ⑥役 員 数 ・ 41名（理事 33名・監事 8名）
- ⑦職 員 数 ・ 283名（男性 146名・女性 137名）

(2) 主な農畜産物

【 米 】・コシヒカリ・あきたこまち

【野 菜】・ピーマン・甘藷・レンコン・みず菜・ちんげん菜・大葉・ベビーリーフ・
エシャレット・春菊・じゃがいも・ねぎ・トマト・セリ等

【果 実】・いちご・メロン

【花 卉】・輪菊・千両・松

(令和4年4月1日現在)

- 【 銘 柄 産 地 】
- ①ピーマン（波崎地区、神栖地区・大野地区）
 - ②春菊（行方市、潮来市）
 - ③セリ（行方市、潮来市）
 - ④甘藷（行方市）
 - ⑤エシャレット（玉造地区）
 - ⑥いちご（玉造地区）
 - ⑦みず菜（行方市）
 - ⑧わさび菜（行方市）
 - ⑨香菜(こうさい)（行方市）
 - ⑩輪菊（神栖市）

(3) 子会社名と事業の内容

- ①子会社名：有限会社 なめがたサービス
(主な事業内容：葬祭業)
- ②子会社名：有限会社 アグリサポート麻生
(主な事業内容：農業受委託等)
- ③子会社名：なめがた農機燃料 株式会社
(主な事業内容：農機具販売・修理 農産物直売)

2. 歴代常勤役員 (理事・監事)

(1) 組合長

- ①平成31年2月～令和 4年4月 棚 谷 保 男
- ②令和 4年4月～ 安 藤 昌 義

(2) 副組合長

- ①平成31年2月～令和 4年4月 安 藤 昌 義

(3) 専務

- ①平成31年2月～令和 4年4月 笹 本 孝 之
- ②平成31年2月～ 野 口 久 穂
- ③令和 4年4月～ 金 田 富 夫

(4) 常務

- ①平成31年2月～令和 4年4月 関 川 隆
(令和4年4月から常務理事2名から1名体制に変更)

(5) 常務 (金融担当)

- ①平成31年2月～平成31年4月 渡 辺 武
- ②平成31年4月～令和 4年4月 小田倉 智
- ③令和 4年4月～ 阿 部 尚 毅

(6) 常勤監事

- ①平成31年2月～平成31年4月 今井稔隆
(平成31年4月から常勤監事2名から1名体制に変更)
- ②平成31年2月～令和4年4月 桂木利朗
- ③令和4年4月～ 野口庄壽

3. 合併前のJAの概要

(1) 合併の概要

「JAしおさい」と「JAなめがた」の2JAは、時代の変化を踏まえ、地域に貢献し続けるJAであるため、広域的な体制整備が必要と考え、平成29年7月、JA合併研究会を発足し、JA再編の実現に向けた議論・検討を重ねた。

同年9月にJA合併研究会選任事務局を設置して協議を進め、合併の日を平成31年2月1日、名称は公募の結果、「なめがたしおさい農業協同組合」に決定した。

平成30年7月11日、関係4市の市長、大井川茨城県知事、佐野5連会長立会のもと合併調印式を行い、同年7月28日両JAは臨時総代会を開催、総代の承認を受け、31年2月1日、県内随一の販売高200億円を超える「なめがたしおさい農業協同組合」が誕生した。



合併調印式 (H30.7.11)

(2) 合併前の組合の概要

<しおさい農業協同組合>

1) 概要 (平成31年1月31日現在)

- ①名 称 ・ しおさい農業協同組合
- ②所 在 地 ・ 茨城県神栖市深芝2752番地5
- ③設立年月日 ・ 平成6年8月1日
(平成7年5月1日よりJA波崎町が加わる)
- ④地 区 ・ 鹿嶋市・神栖市
- ⑤組 合 員 数 ・ 正組合員 4,579名
・ 准組合数 3,743名
- ⑥役 員 数 ・ 32名 (理事 28名・監事 4名)
- ⑦職 員 数 ・ 108名 (男性 70名・女性 38名)

2) 歴代常勤役員 (理事・監事)

①組合長

- ・ 平成19年4月～平成28年4月 野 口 嘉 徳
- ・ 平成28年4月～平成31年1月 安 藤 昌 義

②専務

- ・ 平成25年4月～平成28年4月 池 田 勇
- ・ 平成28年4月～平成30年4月 浦 橋 武 芳
- ・ 平成30年4月～平成31年1月 野 口 久 穂

③常務

- ・ 平成25年4月～平成31年1月 渡 辺 武

④常勤監事

- ・ 平成25年4月～平成28年4月 田 口 正 之
- ・ 平成28年4月～平成29年7月 安 藤 弘
- ・ 平成29年9月～平成31年1月 今 井 稔 隆

<なめがた農業協同組合>

1) 概要 (平成31年1月31日現在)

- ①名 称 ・ なめがた農業協同組合
- ②所 在 地 ・ 茨城県行方市麻生3346番地25

- ③設立年月日 ・昭和63年8月1日
- ④地 区 ・潮来市・行方市
- ⑤組合員数 ・正組合員 8,809名
・准組合員 2,166名
- ⑥役員数 ・30名(理事 25名・監事 5名)
- ⑦職員数 ・161名(男性 82名・女性 79名)

2) 歴代常勤役員(理事・監事)

①組合長

- ・平成22年4月～平成28年4月 中川治美
- ・平成28年4月～平成31年1月 棚谷保男

②専務

- ・平成25年4月～平成28年4月 棚谷保男
- ・平成28年4月～平成31年1月 笹本孝之

③常務

- ・平成25年4月～平成28年4月 笹本孝之
- ・平成28年4月～平成31年1月 関川隆
- ・平成25年4月～平成26年4月(特命) 邊田美知子

④常勤監事

- ・平成25年4月～平成29年4月 大和田岳二
- ・平成29年4月～平成31年1月 桂木利朗

4. 事業の推移(概況)

(1) 地域農業振興の取り組み

【青果物】

1) 当地区の概況

県東南部に位置する当産地は、霞ヶ浦・北浦・鹿島灘に囲まれた行方台地・鹿島台地、両湖岸には「水郷」と呼ばれる水田地帯、太平洋に面する水はけの良い砂丘からなり、四季を通じて温暖な気候と肥沃な土壌が広がっている。

地域の特性を生かし、ピーマンの作付面積、販売量ともに日本一の一大産地である。また、甘藷をはじめ、いちご、レンコン、みず菜、コメなど80品目

を超える高品質多品目生産産地であり、首都圏の食糧供給基地として重要な役割を担っている。



合併調印式にてディスプレイされたJAしおさい、JAなめがたの特産品が満載された宝船

2) 日本一のピーマン産地への歩み

ピーマン栽培が始まったのは、終戦直後の昭和24年頃。進駐軍が食べる野菜として、波崎地区で栽培開始した。当時は高級野菜だったが、昭和35年頃には食生活が洋風化し一般家庭に広がった。

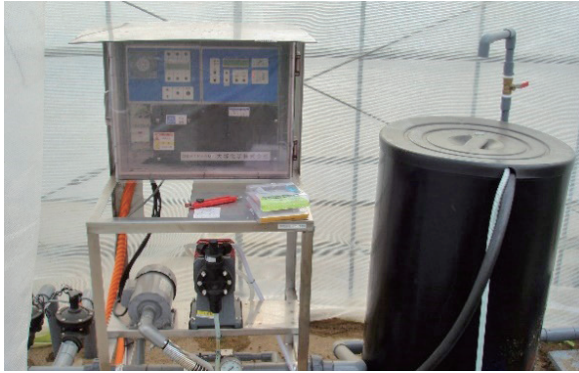
また、鹿島開発がすすめられた昭和40年頃からビニールハウスでピーマンを栽培する農家が増え、一大産地が形成された。昭和63年、生産農家の先進的な取り組み、技術の確立、努力が実り、波崎青販部会が日本農業賞 金賞を受賞した。

さらに、環境にやさしい栽培技術として、施肥量の削減、省力、増収効果が期待できる養液土耕栽培技術の導入に積極的に取り組み、令和3年度までに62[㍉]を栽培している。

適正量の施肥、水管理を行うことで、窒素施肥量は慣行比20~30%減、収量慣行比10%増、施肥、灌水にかかる時間は慣行比84%減と、省力化による農家負担の減、収量増による農家所得の向上に大きく貢献している。

また、政府の打ち出す「みどりの食糧システム戦略」内の「低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体制」にあたる害虫防除を目的とした天敵昆虫の利用も約20年前から導入している。消費者の要望に応えるため、部会員全員がエコファーマーを取得。

また、GAP（農業生産工程管理）を導入するなど、安全・安心で環境に優しい栽培に取り組んでいる。



養液土耕栽培システム
環境に優しい農業を実現している



天敵昆虫「タイリクヒメハナカメムシ」
多数のアザミウマを捕食する

3) 省力化と生産振興めざしピーマン集出荷施設の稼働

出荷作業に係る生産者の負担軽減と安定した農業経営の実現のため、神栖地区の集出荷施設に続いて、平成30年6月に波崎青販部会集出荷施設を竣工した。同施設は日量80トンの処理が可能で、無選別出荷による重量選果システムや、バラ詰め機械およびフィルム詰め機を備え、選果統一による高品質での安定供給、有利販売が可能となった。

生産者は収穫後の選果選別作業が無くなり、出荷調製にかかっていた時間を生産・管理に向けることができ、ピーマンの品質向上や規模拡大、農業所得の向上、安定した農業経営が実現している。



ピーマンの選果場

4) 味の素とピーマンのパッケージコラボ

令和元年から味の素社製品「クックDO」シリーズなどとコラボし、茨城県出身の有名タレントによる丸鶏ガラスープを使用した「無限ピーマン」のCMによるPRのほか、春、秋の出荷最盛期にチンジャオロースなど、味の素商品をカラーで印刷したパッケージで出荷し、消費者に向けたメニュー提案と売り場作りで、消費拡大、販売促進を行っている。



味の素社とコラボ

5) たゆみない努力、天皇杯の受賞（なめがた甘藷部会連絡会）

昭和51年、35人の部会員から始まった甘藷部会は、研究機関、行政、JA、生産者が一体となり、栽培技術の向上、高品質生産に努めた。

平成29年3月の日本農業賞「大賞」受賞に続き、同年10月農林水産省が主催する第56回農林水産祭において、特に模範となる優れた取り組みがあった個人・団体に贈られる天皇杯受賞者が決定し、JAなめがた甘藷部会連絡会が、『味で勝負する「焼き芋」販売戦略による地域活性化と農業所得の向上』が評価され、栄誉ある天皇杯（多角化経営部門）が授与された。



第56回農林水産祭にて天皇杯を授与



農業賞の最高峰天皇杯

6) JAなめがたしおさい JAバンクCM 全国に放映

平成31年2月から、JAバンクCMシリーズとして当JAが取り上げられ、日本テレビ「笑点」をはじめとして各テレビ局で放映され、JAが全国の消費者に大々的にPRされた。

7) 東京スカイツリーに、「さつまいも畑」

平成24年5月東京スカイツリー開業と同時に、隣接する商業施設「東京ソラマチ」に、当JAと白ハト食品工業が共同で企画した「おいも畑」がオープンした。

この畑には、行方市の土、甘藷部会の用意した苗、JAから肥料が持ち込まれ、JAが農園管理を行い実現した。開業以来毎年苗植え会、収穫祭が行われ、都市部住民のみならず、全国から訪れる人々に農業の魅力を伝える拠点となっている。



スカイツリーのふもとで農業体験をする親子連れ



収穫祭のようす

8) 地域を巻き込んだ大規模な六次産業化事業の展開

平成27年10月、体験型農業テーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」がオープンした。

廃校となった小学校と耕作放棄地を利用して整備したもので、日本初のやきいもミュージアムや地場農産物を使用した加工場やレストラン、さらに直売所、体験農場を併設している。基幹作物である甘藷の加工向け無選別出荷、規格外の活用など、農家の所得向上、労働時間の軽減など産地の地域振興の拠点として大きな役割を担っている。



オープニングイベントの様子

また、地域内となめがたファーマーズヴィレッジとの連携に対して、片山さつき内閣府特命担当大臣より、地方創生に貢献する優良事例として、平成31年4月表彰を受けた。



白ハト食品工業永尾社長（中央）と額賀国会議員（左）

9) パクチー（香菜）など新たな品目への挑戦

平成30年3月県庁で、行方市産パクチーの茨城県銘柄産地指定交付式が行われた。生産開始から10年、空前のパクチーブームに至るまで地道に栽培技術を磨き、販売高1億円を突破し、全国トップクラスのパクチー供給産地となった。

また、令和元年6月には、なめがたしおさいハーブ部会が発足し、40代の部会メンバーが中心となり、主にバジル、スペアミントを出荷する。大手食品メーカーと全量年間契約し、出荷単価と所得の安定化を図っている。



香菜（パクチー）県銘柄産地授与式



若手農家が中心となりハーブ部会創設

10) 「焼き芋」輸出への取り組み

全農いばらきと連携し、タイ、シンガポール、フランス、ドイツ、カナダへの周年供給体制の確立と、安定した価格で販売を行うことで生産者の安定的な収入確保に向けた取り組みを進めている。

平成30年3月には、カナダ量販店で現地バイヤーと課題に対する打ち合わせや、商談などを行ったほか、店頭で「行方（なめがた）かんしょ」のPRイベントを開いた。焼き芋の試食や、購入後家庭で調理ができるよう、英語で作成したレシピを提供し、食べ方の提案を行っている。平成28年の輸出額（約

610万円) から、令和3年度は(約2億9千万円) と6年間で48倍に増加している。



カナダ量販店店頭で焼き芋の消費宣伝



タイにて、JA産甘藷のPRイベント

11) GAPへの取り組み

販売力と生産力の強化として、消費者・実需者のニーズを把握し、積極的に市場・仲卸・加工契約・実需者へのPRを行った。茨城県GAP第三者確認制度に一早く取り組み、茨城県第1号の「ちんげん菜」をはじめ、第13号の「あさがお菜」、第14号の「甘藷」波崎青販部会GAP部の「ピーマン」が確認、登録され、2020東京オリンピック選手村で扱う生産物供給の足掛かりとした。



茨城県GAP 1号に承認された
ちんげん菜部会連絡会GAP部



甘藷部会連絡会GAP部



あさがお菜部GAP部



波崎青販部会GAP部

12) 3期連続農林水産大臣の視察

令和元年9月の江藤拓農水大臣訪問に続き、2年10月には野上浩太郎農水大臣が、3年11月には金子原二郎農林水産大臣が当産地の取り組みを視察に訪れ、意見交換を行った。

金子大臣は、農業経営にあたる課題、燃油高騰対策、後継者問題等について、JA・役員関係者だけでなく、生産者、青年部、女性部代表と膝を交えての車座対談を行い、大臣に現場の声をじかに届けることができた。



キュアリング施設を視察する野上大臣



金子大臣、生産者等と意見交換

13) 閣僚会議で当JAの取り組みを説明

令和3年4月首相官邸で第11回農林水産物・食品の輸出拡大のための輸出国規制への対応等に関する関係閣僚会議に出席し、菅総理大臣をはじめ閣僚に対して、当JAで取り組む持続的農業の発展を見据えたグローバル産地化について説明し、理解を求めた。



首相官邸で、菅総理大臣に当JAの取り組みを説明

【水田農業】

1) 一番星や米粉専用品種等への取り組み

主食用米「コシヒカリ」、「あきたこまち」を中心に良食味の生産を行い、平成17年度から開始したJA独自の買取販売により、生産者の収入安定化、所得の向上を実現している。

また、超早場米産地としての地の利を生かし、茨城県が独自に研究開発・育成した水稻極早生品種「一番星」の生産拡大に取り組んでいる。粒は厚みのある大粒でもちもちとした食感で、8月上旬の収穫が可能。

「道の駅いたこ」で、お盆の土産需要を焦点にPRを行い、「一番星」目当てに大勢の購入客で賑わった。また、地元サッカークラブとコラボしたパッケージでの販売を行い、年々好評を得ている。



道の駅いたこで行った「一番星」関東初売りイベント

コロナ禍や、生活様式の変化に伴い冷凍米飯用米の栽培面積増にも取り組んだ。また世界的な穀物需給の変化に対応し、米粉需要の高まりに対応するため、県普及センター、生産者と連携し、新品種の試作、生産増に向けた取り組みを行っている。



米粉用多収米品種「笑みたわわ」現地検討会の様子

2) ライスセンター整備

令和2年に潮来、玉造にライスセンター（共同乾燥調製施設）を再整備した。この施設の稼働により、農家の機械設備の投資を抑え、乾燥調製のコストや労力の低減、繁忙期の人手不足の解消につながった。

また、担い手農家は作付面積の拡大が可能となることに加え、色彩選別機による品質向上ができ、有利販売を進めることで、農業者の所得増大が期待される。

3) 次世代の子供たちへ

学校給食用に、減農薬、減化学肥料で栽培する特別栽培米コシヒカリ「しおさい米」と、「潮来あやめちゃん」を供給している。次代を担う子供たちに、

毎日の給食を通じて米を中心とした日本型食生活の良さを伝え、子供の頃から安全、安心、おいしい地元産米に親しむことで地産地消、さらに「国消国産」理解への基盤づくりをしている。



4) 皇室へ当産地産の「米・粟」を献穀

令和元年11月の天皇陛下の即位に伴う、皇室行事の宮中献穀「庭積の机代物」(にわづみのつくえしろもの)において、米、粟を供納し、協力御礼として宮内庁を通して菊の御紋の入った漆塗りの木杯を賜った。



大嘗祭に供納した 米・粟



宮内庁を通じて賜った漆塗りの木杯



皇居前にて「大嘗祭（だいじょうさい）」に
米、粟を届ける生産者

【花 卉】

1) 松と千両

波崎地区は千両、松の栽培が盛んで、日本一の出荷量を誇る。生産量は全国シェアの約7割を占める。その歴史は古く約100年前の大正初期から栽培が始まる。

毎年12月初旬に鹿島神宮の神職 権宮司を招き、「松と千両頒布始め祭り」を行い祝詞奏上の後、年始に家族の絆を深め、縁起ものである松と千両を飾り、新たな一年を健やかに迎えてほしいと祈願し、玉串奉奠を行っている。



頒布始め祭りのようす



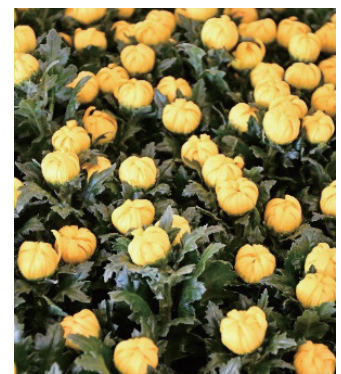
慶事に欠かせない
松・千両・輪菊

2) 波崎菊部会（県銘柄産地指定）

J Aなめがたしおさい波崎菊部会は、黄色品種を中心に周年で輪菊栽培を行っており、平成24年に茨城県の銘柄産地に指定されている。少数精鋭の部会員が専作で輪菊栽培に取り組み、新しい技術や品種の導入を行うことで、市場のニーズに応えている。



波崎菊部会



黄色輪菊にこだわり
ニーズをとらえた生産を行う

【加工品・インショップ】

1) 加工品の取り組み

特産品を活かし、オリジナル加工品の開発と販売を実現し、産地のブランド力強化につなげている。公式ホームページ、行方市、J Aタウン、ふるさと納

税などで野菜、野菜ボックスの販売、「オイシックス・ラ・大地」への食材提供や、「巣ごもりニーズ」などコロナ禍の食糧事情にこたえ、新たな取り組みに関係機関と連携して対応している。

冷凍焼き芋は、冷凍技術の向上と、冷凍食品需要の高まりを受け、甘藷の糖化が最も焼き芋に適した時期を見極め、熟練の生産者が認める焼き加減で仕上げた焼き芋を冷凍し、1本と3本入りで販売を開始。

コープさっぽろ、コープこうべ、公式ホームページ等で発売開始した。初年度10万本の販売から始まったが、増産需要がさらに伸び、3年目で30万本が完売の売れ行き。温めて食べる外にも、夏場の冷たいまま食べるスイーツ需要にも適応し、さらに増産が望まれている。



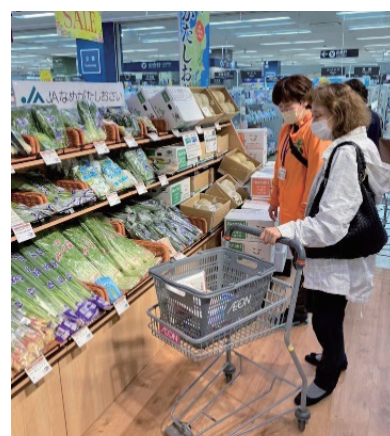
特産品を活かした加工品を企画、発売



JAなめがたしおさい公式オンラインストア

2) イオンインショップ

令和3年5月イオン鹿嶋店店頭に、常設の「なめがたしおさいコーナー」を拡大出店している。鮮度感をアピールするため、店内モニターで生産者が地場野菜を収穫する風景や、野菜生産にかける想いをPRする動画を配信している。地域住民に向けたJAブランドの周知と、高品質の地元産品の提供により、食の安全を守り、地産地消、国消国産を推し進めている。



食料品コーナー入り口にできた常設コーナー

(2) 自己改革の取り組み

1) 職員による農業経営事業

担い手の育成や農業経営の安定化を目的とし、営農指導担当者が中心となり、職員自らがピーマン栽培を行う農業経営事業を平成29年より開始した。

同ハウスは、各メーカーと新資材を調査し、地域の気候やピーマンの特性に適した栽培方法の確立を行う試験場としての機能も兼ねており、効果の検証と職員の営農指導の実践を通じた知識・技術の向上を図っている。



実習作業を行う職員



除草、ハウス立ても職員が行う

2) 新規採用職員 農作業実習

新規採用職員を対象に、水稻苗出し作業、ピーマン圃場の整備など、農作業実習を実施している。自身の担当業務以外のことを体験することで、JAの強みである総合事業への理解を深めることが目的で、コロナ禍前には農家研修を実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、JA内部施設の実習としている。部署を問わず職員が協力して作業を行うことで、職員同士の結束も高まっている。



JAハウス内で収穫作業・苗だし作業を行う新採職員

(3) 地域貢献活動の取り組み

1) 地域の子供たちへの食育活動と交流活動の継続

管内の各小学校等と連携して、次世代を担う子供たちにJAへの職場見学受け入れ、また農業体験を通じての食農教育を積極的に行っている。サツマイモづくり体験活動は、芋苗植えから収穫体験を通じて、命を守り育てる農業の魅力を感じ、理解を深める機会となっている。



小学校児童へ芋植え前に説明する職員



青年部によるジャガイモ収穫体験

2) 女性部による声掛け運動

なめがた地域女性部は安心して暮らせる地域づくりを目指し、約90名の一人暮らしの方へ、旬の野菜や、新米などを手渡し、年3回の声掛け運動を継続実施している。



「お元気ですか」声掛け運動のようす

3) 地域住民向け感謝祭の開催、協同の力を発揮し、災害支援

平成2年から、都心の消費者向けに計25回開催した「ふれあいまつり」を、地元住民向けにリニューアルし、日ごろの感謝を込めたイベントとして、26年10月「JAなめがた感謝祭プラス元気田んぼ祭り」を開催した。

会場各地に募金箱を設置し、寄せられた善意を全額潮来市、行方市社会福祉協議会へ寄付を行った。

27年度は、大規模水害に見舞われたJA常総ひかりに対して義援金として届けたほか、人的支援として、延べ64名の職員がボランティア活動を行った。

4) 地域イベントへの参加

「かみす舞っちゃげまつり」に役職員50余名が参加。ピーマンの早食い競争や、ピーマンサンバで会場を盛り上げた。

また、平成31年3月に開催された「第5回IBARAKI100kウルトラマラソンin鹿行」に職員有志3名が出走し、JAのロゴ、管内名産野菜Tシャツを着用し激走した。

大会会場では、焼き芋、焼きピーマン、ニンジンジュースを配布し、全国から参加するランナーに大いに好評を得た。



100k マラソンゴール地点で自慢の炭火焼きピーマン焼き芋を振舞った

5) 職員による地域清掃、草刈 魅力ある店舗づくり

職員が毎週火曜日ゴミ拾い活動をするほか、職員有志により、地域の景観形成と生活環境の保全のため、幹線道路の草刈りや、花植え活動を行う。

また、親しみやすく利用しやすい店舗づくりを目的に、事業所入口に花壇を設け、職員による花植え活動を行い、来店者に好評を得ている。



幹線道路の草刈り清掃活動



店舗美化運動

6) 「いのちをつなごう こども支援プロジェクト」に参加

令和元年7月NPO法人フードバンクプロジェクトに参加し、甘藷「熟成紅こがね」100ケース（500kg）を提供し、県内241世帯に届けられた。

また、地元NPO法人と連携し、ひとり親世帯支援で年5回にわたり、地元の農産品を手渡しで無料配布、継続して地域貢献活動を行っている。



甘藷500kgをNPO法人に贈呈



ひとり親世帯への支援

7) JAオリジナル食育連絡帳の作成、新一年生に贈呈

小学校の入学祝い品の一つとして贈呈する黄色い交通安全帽子に加え、JAオリジナルの食育連絡帳を制作し、管内の全小学一年生に贈呈している。親子が楽しみながら地域の農産物や、農家、JAの働きが学べる内容で、毎日使う連絡帳を通じて地域への愛着を持ってもらうことを目指している。令和3年度に続き、内容をグレードアップして令和4年度版を制作した。



新入学祝い、交通安全帽子の贈呈



JAオリジナル連絡帳を贈呈

(4) 組織・事業基盤の整備取り組み

JA自己改革を支える人材の育成と確保に努めるとともに、経営資源の集中と適切な再配置により、盤石な経営基盤の構築と、JA機能の向上に努めた。

1) 金融店舗の再編

平成28年9月26日鹿嶋地区支店の統廃合、同年11月25日に潮来地区支店の統廃合を実施し、支店機能の強化、充実を図った。

29年9月25日には、本店と神栖支店を一体とした新店舗をオープンした。親しみやすく来店しやすい身近に感じる店舗をコンセプトに地域農業の拠点となる施設を目指している。

店舗再編により、専門的で高度な複数の集中配置を実現し、出向く体制を強化。JA組合員や、地域の方にJAなめがたしおさいの事業を継続・安定的に利用いただき、地域に役立つJAであるために、複合渉外担当、TAC、営農指導渉外の訪問巡回を中心に、ニーズに合った商品、情報、サービスの提供を行い、満足度向上に努めている。

2) 施設の充実、地域の農業を後押し

令和2年8月、旧須田共撰所を利用し、JAの農業振興の新たな拠点として、須田資材センターとして再整備を行った。敷地面積7000㎡の同センターを地域農業振興の拠点として、生産者の利便性向上と強化を図っている。

また、4年7月、子会社のなめがた農機燃料が、南部農機センターに隣接し、1階にショールームを備え、農業機械の販売から、メンテナンス、レンタルまでトータルに農業者をサポートする社屋を完成させた。

持続可能な農家作りに貢献する。

3) 北部キュアリング施設竣工 生産力強化とコスト削減

令和元年10月、儲かる農業実現のため、さつまいもの長期貯蔵を可能とするキュアリング処理を行う貯蔵施設を北浦地区に整備。既存の麻生、宇崎キュアリングと合わせ、受け入れ能力は5000トンに拡大。農家の設備投資軽減と、施設の増設による生産量増加と販売力の強化を進めている。

4) 多様化するニーズに対応

令和2年6月、家族葬ホール「なめがたファミリーホール」を竣工した。全館バリアフリー、日本庭園を思わせる中庭エントランスは開放感があり、和風で温かみのある式場となっている。近年要望が高まっている家族葬対応型の式場完成により、今後も地域住民へ寄り添ったサービスを提供していく。



家族葬ホール「なめがたファミリーホール」

(5) 自然災害の発生

令和元年9月9日、最大風速57.5メートルと、当時の観測史一位の勢力をもって上陸した台風15号は、管内中心部を通過し、管内全域の建物、農業施設、農作物に甚大な被害をもたらした。

同月11日額賀福志郎衆議員、宇野副県知事が被害状況の視察に訪れ、続いて14日、江藤拓農林水産大臣が管内入りし、行政関係者と意見交換、復興要請を行った。



ハウスの被害状況



現地視察をする江藤大臣

5. 事業成績並びに財産及び損益の状況

※単体自己資本比率は、合併後の単体自己資本比率について記載しています。

(単位：千円、%)

区 分	項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
財務	事業利益	306,330	291,492	397,994	478,195	471,155	414,557	417,503	400,689	370,825
	経常利益	392,012	378,586	489,635	561,321	562,903	499,797	557,032	578,987	519,635
	当期剰余金	314,534	286,622	371,907	378,476	402,606	341,160	384,778	421,398	385,455
	総資産	113,362,330	114,049,278	116,445,736	120,322,628	124,529,386	128,804,498	126,466,222	127,281,782	129,727,664
	純資産	4,822,022	5,076,779	5,442,246	5,852,397	6,268,347	6,780,625	7,266,635	7,724,616	8,237,079
	単体自己資本比率							16.58	17.39	18.36
信用事業	貯金	104,670,884	105,219,819	107,344,761	110,851,158	114,728,351	117,634,960	114,857,337	115,471,113	117,264,706
	預金	85,731,163	89,216,123	92,939,452	97,868,977	102,163,730	104,420,164	99,999,946	97,731,285	93,818,565
	貸出金	17,343,732	15,711,570	14,416,019	13,229,372	12,759,725	14,043,477	15,701,007	16,700,550	20,218,144
	有価証券	1,027,948	412,849	100,896	110,515	110,405	217,334	224,904	1,898,678	4,211,400
	うち国債	1,027,948	412,849	100,896	110,515	110,405	217,334	224,904	1,898,678	4,211,400
共済事業	長期共済保有高	423,095,600	409,102,689	396,047,485	387,030,802	374,760,670	361,807,865	351,519,522	345,169,006	332,432,587
	短期共済新契約掛金	551,724	593,241	621,031	625,984	649,124	632,978	645,253	647,081	664,809
購買事業	購買品供給高	4,610,545	4,452,182	4,013,613	3,978,309	3,997,665	4,421,765	4,016,582	4,172,842	4,067,055
販売事業	販売品販売高・取扱高	18,620,548	18,544,732	20,287,677	21,106,278	20,818,946	20,897,301	20,020,781	21,746,981	20,733,945
保管事業	取扱高	15,874	15,541	10,624	9,206	8,197	7,944	6,858	6,977	8,481
加工事業	取扱高	40,923	38,575	29,365	34,104	22,139	26,565	48,704	59,571	60,308
利用事業	取扱高	401,858	416,949	416,840	436,296	424,895	366,291	383,524	257,187	256,520
宅地等供給事業	取扱高	—	—	—	—	—	—	—	—	—